

MIDDLE1600_7

1601: 棒^{ぼうじょう} 状^{じょう} のツイータを開^{かい} 発^{はつ} しようとしたが、失^{しつ} 敗^{ぱい} しました。

1602: 草^{くさ} 冠^{かんむり} の漢字^{かんじ} を、助^{じょ} 手^{しゅ} のビシュケクに列^{れつ} 挙^{きょ} させました。

1603: それ硫^{りゅう} 酸^{さん} だから、デヨン様^{さま} に触^{さわ} らせちゃダメでしょ？

1604: ふむ、プラスコーヴィヤを潰^{つぶ} すとは、穏^{おだ} やかじゃないですな。

1605: ニョキニョキと生^は える雑^{ざつ} 草^{そう} に怒^{いか} るメツァンジェが、除^{じょ} 草^{そう} 剤^{ざい} を撒^ま きました。

1606: 鍵^{かぎ} は開^あ けてますので、ピュイゼギユール様^{さま} と話^{はなし} をするなら今^{いま} です。

1607: ミェンミェンとツェペリは、ジェット機^き でニューヨークに進^{しん} 軍^{ぐん} しました。

1608: フォーゲルヴァイテは、著^{ちよ} 書^{しよ} の粗^{あら} 筋^{すじ} をまとめることに苦^く 勞^{ろう} してます。

1609: キンダーツェッヒェは、子^こ 供^{ども} への愛^{あい} がある祭^{まつ} りですね。

1610: バーディの数^{かず} でペルッティをこ^こ えるのは、無^む 理^り じゃと思^{おも} うがの。

1611: ギュリヴェールに勝^か つつもりなら、ツェグヴェリを^{おとず} 訪^{おも} れてみなされ。

1612: ピアッツァは母^ぼ 国^{こく} に失^{しつ} 望^{ぼう} し、他^た 国^{こく} へ帰^き 化^か することを決^き めました。

1613: ダミヤノヴォは、喉^{のど} に腫^{しゅ} 瘍^{よう} が見^み つかり悩^{なや} んでいます。

1614: このひょっとこは、バルニャーニの指^し 示^じ で作^{つく} ったものです。

1615: デュプレには特^{とく} 殊^{しゅ} 能^{のう} 力^{りき} があり、なんでも透^す けて見^み えるそうです。

1616: 妙^{みょう} 齡^{れい} のパティシエールが、虚^き 々^{きょ} 実^{じつ} 々の駆^か け引^ひ きで快^{かい} 挙^{きょ} を遂^と げました。

1617: チュルゴが寝^ね 苦^{くる} しかったのは、籠^{かご} 枕^{まくら} が合^あ わなかったからです。

1618: 私^{わたし} の兄^{あに} は、クォデネンツを^{さが} 探^{もと} し求^{はや} め、早^{はや} 死^じ にしちゃったのです。

1619: ポロヴェーツィケでは、風^{かざ} 車^{ぐるま} を作^{つく} る遊^{あそ} びが流^{はや} 行^や ってるそうです。

1620: 浴^{よく} 室^{しつ} にカビが生^は えたので、先^{さき} 程^{ほど} からカミュが除^{じょ} 去^{きょ} してます。

1621: ツォンカパは、^{れつきよ}列^{きょうざい}挙^{かきよ}された^{かん}教^{えら}材^{えら}から、科^{えら}挙^{えら}に関するものを選ぶでしょう。

1622: 「きえー」と^{さけ}叫^{さけ}び^{さけ}ベ^{さけ}ッドで^{ははおや}ピ^{しか}ョン^{しか}ピ^{しか}ョンして^{ははおや}いたら、母^{しか}親^{しか}に^{しか}叱^{しか}られました。

1623: ミャオミャオと^な鳴^ないて^なる^なのは、^{かびん}じゃ^われて^わ花^わ瓶^わを^わ割^わった^わから？

1624: ポリネシアの^{ししゃ}使^{ししゃ}者^{ししゃ}から、^{しゆくふく}祝^{おことば}福^{たまわ}の^{たまわ}御^{たまわ}言^{たまわ}葉^{たまわ}を^{たまわ}賜^{たまわ}りましたよ。

1625: ズギェシに^{きよじゅう}居^{にんぶ}住^{たす}の^{もと}妊^{もと}婦^{もと}が、^{もと}助^{もと}け^{もと}を^{もと}求^{もと}めて^{もと}き^{もと}ま^{もと}し^{もと}た^{もと}。

1626: ^{どわす}度^{どわす}忘^{どわす}れ^{どわす}し^{どわす}た^{どわす}け^{どわす}ど、^{てがみ}ヘ^{てがみ}カ^{てがみ}ト^{てがみ}ン^{てがみ}ピ^{てがみ}ュ^{てがみ}ロ^{てがみ}スに^{てがみ}ゾ^{てがみ}フ^{てがみ}ィ^{てがみ}ーの^{てがみ}手^{てがみ}紙^{てがみ}が^{てがみ}あ^{てがみ}る^{てがみ}は^{てがみ}ず^{てがみ}で^{てがみ}す。

1627: ヴァレンティヌスは^{いちゅう}意^{ひと}中^{うしな}の^{しゆい}人^{だつらく}を^{だつらく}失^{だつらく}い^{だつらく}、^{だつらく}首^{だつらく}位^{だつらく}か^{だつらく}ら^{だつらく}も^{だつらく}脱^{だつらく}落^{だつらく}し^{だつらく}ま^{だつらく}し^{だつらく}た^{だつらく}。

1628: ジェムチュージニコフの^{きょがく}巨^{しゃつきん}額^{たから}な^あ借^{かえ}金^{かえ}は、^{かえ}宝^{かえ}く^{かえ}じ^{かえ}が^{かえ}当^{かえ}た^{かえ}り^{かえ}返^{かえ}せ^{かえ}ま^{かえ}し^{かえ}た^{かえ}。

1629: ニェメツのお^{せいぼ}歳^{せいぼ}暮^{せいぼ}は、^{つく}ヴェ^{つく}ネ^{つく}ツ^{つく}ィ^{つく}アで^{つく}作^{つく}ら^{つく}れ^{つく}た^{つく}ジ^{つく}ャ^{つく}ムで^{つく}し^{つく}た^{つく}。

1630: アンニュイと^い言^{へんじん}う^{へんじん}が^{へんじん}変^{へんじん}人^{へんじん}な^{へんじん}だ^{へんじん}け^{へんじん}な^{へんじん}の^{へんじん}で、^{あいそ}ぼ^つち^つぼ^つち^つ愛^つ想^つを^つ尽^つか^つす^つね^つ。

1631: ^{なに}何^{なに}や^{なに}ら^{なに}グ^{なに}ジ^{なに}ェ^{なに}ゴ^{なに}シが^{なに}、^{つく}パ^{つく}ヴ^{つく}ェ^{つく}ウと^{つく}ピー^{つく}チ^{つく}ジ^{つく}ュ^{つく}ースを^{つく}作^{つく}っ^{つく}て^{つく}ま^{つく}す^{つく}。

1632: チェレスティーナが^{きゅうだん}糾^{きゅうだん}弾^{きゅうだん}され^{きゅうだん}た^{きゅうだん}が^{きゅうだん}、^{ことな}ビ^えュ^えルが^えフ^えォ^えロ^えーし^え事^え無^えき^えを^え得^えま^えし^えた^え。

1633: ^{うたが}疑^{うたが}わ^{うたが}し^{うたが}き^{うたが}ジ^{うたが}ャ^{うたが}ッ^{うたが}ジで^{うたが}ウ^{うたが}ィ^{うたが}ジ^{うたが}ャ^{うたが}ヤさん^{うたが}を^{うたが}欠^{うたが}く^{うたが}の^{うたが}は、^{いたで}か^{いたで}な^{いたで}り^{いたで}の^{いたで}痛^{いたで}手^{いたで}で^{いたで}す^{いたで}な^{いたで}。

1634: ^{この}九^{この}つ^{この}の^{この}時^{この}に、^{とき}飄^{ひょうひょう}々^{ひょうひょう}として^{ひょうひょう}い^{ひょうひょう}る^{ひょうひょう}デ^{ひょうひょう}ュ^{ひょうひょう}ム^{ひょうひょう}シ^{ひょうひょう}ュと^{ひょうひょう}知^しり^あ合^あい^あま^あし^あた^あ。

1635: ギャヴァと^{けんえん}ギ^{けんえん}ェ^{けんえん}ナーは^{なか}犬^{ちゅうさい}猿^{ちゅうさい}の^{ちゅうさい}仲^{ちゅうさい}で、^{ちゅうさい}仲^{ちゅうさい}裁^{ちゅうさい}で^{ちゅうさい}き^{ちゅうさい}そ^{ちゅうさい}う^{ちゅうさい}も^{ちゅうさい}あ^{ちゅうさい}り^{ちゅうさい}ま^{ちゅうさい}せ^{ちゅうさい}ん^{ちゅうさい}。

1636: ^{りやくれき}略^ふ歴^ふに^ふ触^{きよめい}れ^{きよめい}る^{きよめい}こ^{きよめい}と^{きよめい}な^{きよめい}く^{きよめい}虚^{きよめい}名^{きよめい}も^{きよめい}ば^{きよめい}れ^{きよめい}ず^{きよめい}に、^{きよめい}虚^{きよめい}業^{きよめい}を^{きよめい}始^{はじ}め^{はじ}ま^{はじ}す^{はじ}。

1637: ^{よせ}寄^い席^いに^い行^いく^いけ^いど、^{せつかく}折^{せつかく}角^{せつかく}だ^{せつかく}か^{せつかく}ら^{せつかく}グ^いァ^いニ^いーと^いイ^いビ^いュ^いコ^いスも^い行^いき^いま^いし^いょ^い。

1638: リュギョンスが、^{むずか}難^{むずか}しい^{むずか}ミ^{むずか}ュ^{むずか}ーが^{むずか}、^{きやくほん}脚^{きやくほん}本^{きやくほん}に^{きやくほん}戸^{とまど}惑^{とまど}っ^{とまど}て^{とまど}い^{とまど}ま^{とまど}す^{とまど}。

1639: ジャヴァヒシヴィリは、^{まず}貧^{まち}しい^{そだ}街^{そだ}で^{そだ}育^{せいしん}ち^み、^みハン^みグ^みリー^み精^み神^みに^み満^みち^みて^みま^みす^み。

1640: ビールと^{きんいつ}レ^{きんいつ}モ^{きんいつ}ネ^{きんいつ}ードを^{きんいつ}均^{ひりつ}一^まな^ま比^ま率^まで^ま混^{つく}ぜ^{つく}、^{つく}パ^{つく}ナ^{つく}シ^{つく}ェを^{つく}作^{つく}り^{つく}ま^{つく}し^{つく}ょ^{つく}う^{つく}。

1641: ポニャトスキーの^{どごう}怒^{とどろ}号^{とどろ}が^{とどろ}轟^{とどろ}き^{とどろ}ま^{とどろ}し^{とどろ}た^{とどろ}が^{とどろ}、^{ひじょうじたい}ひ^{ひじょうじたい}ょ^{ひじょうじたい}っ^{ひじょうじたい}と^{ひじょうじたい}し^{ひじょうじたい}て^{ひじょうじたい}非^{ひじょうじたい}常^{ひじょうじたい}事^{ひじょうじたい}態^{ひじょうじたい}？

1642: ヒュドラを滅^{ほろ}ぼす武具^{ぶぐ}の開^{かい}発^{はつ}には、瑠璃^{るり}とヒュパティア^{ひつよう}が必^{ひつ}要^{よう}じゃ。

1643: イェナーキイェヴェでのディナーで、キューブカップの冷^{つめ}たいジェラート^{ひみ}が美味^{びみ}でした。

1644: えっと、茶^{ちや}柱^{ばしら}が立^たった日^ひの出来事^{できごと}を、ボスのシャンティ^{こうじゅつ}に口^{こう}述^{じゅつ}しました。

1645: 幼^{よう}弱^{じやく}な若^{わか}君^{ぎみ}のラングミュア^{ようじやく}ですが、キレるとヤバイですよ。

1646: トゥヴィエとジャーヴィスの決^{けつ}闘^{とう}、どっちが勝^かつか賭^かけましょか。

1647: チグゥは、絶^たえることなく念^{ねん}仏^{ぶつ}を唱^{とな}えるよう、指^し示^じされました。

1648: 屋形船^{やかたぶね}でウェツェルがプロポーズして、断^{ことわ}られたらしいわ。

1649: 中^{ちゅう}止^しは潔^{いさぎよ}いけど、やっぱパーニョ^{りょこう}旅^{りょ}行^{こう}はやりたいな。

1650: 究^{きゅう}極^{きよく}のシェフ^{しかにく}による鹿^{しか}肉^{にく}のファルファツレ^{ひやっきん}が、百^{ひゃく}均^{きん}にあります。

1651: カルヴァーリョ^なが、奈^な落^{らく}の底^{そこ}の地獄^{じごく}絵図^{えず}を展^{てん}示^じするんですってね。

1652: 喉^{のど}が渴^{かわ}くと、ヘーフェヴァイツェンでもグイっとやりたくなるね。

1653: スツォは指^{ゆび}の静^{じょう}脈^{みやく}が傷^{きず}つき、指^し紋^{もん}認^{にん}証^{しょう}できなくなりました。

1654: プレクムリエから、厳^{げん}封^{ふう}された何^{なに}かが届^{とど}いてます。

1655: スイートポテトが、難^{なん}局^{きよく}を乗^のり切^きるには不可^ふ欠^{かけつ}です。

1656: エリュシオンの封^{ふう}印^{いん}が解^とけ、テュポンの肉^{にく}体^{たい}は消^{しょう}滅^{めつ}しました。

1657: 緑^{りよく}黄^{おう}色^{しよく}野^や菜^{さい}をガッツリ食^たべれば、無^む病^{びよう}息^{そく}災^{さい}ですよ。

1658: ゲズイーラのオペラハウスで、パラパラでも踊^{おど}りましょ。

1659: ビェンカの笑^{えが}顔^おは、タンポポの如^{ごと}く周^{まわ}りを和^{なご}やかにします。

1660: 虚^{きょ}実^{じつ}織^おり交^まぜた説^{せつ}得^{とく}により、街^{まち}を写^{うつ}す許^{きょ}可^かを得^えました。

1661: ウォロジミールの知^ち略^{りやく}を拒^{きょ}絶^{ぜつ}し退^{しりぞ}けるとは、無^む鉄^{てつ}砲^{ぽう}すぎますよ。

1662: 互^ご助^{じょ}義^ぎ務^むがあるため、貯^{ちょ}金^{きん}をユヴァスキュラの母^{はは}に送^{おく}ります。

1663: パイナップルが桑果^{そうか}ってことは、授業^{じゅぎょう}でやりましたよ。

1664: 教会^{きょうかい}で祈^{いの}るクアルティーナに、綿菓子^{わたがし}を送^{おく}ります。

1665: ゴキブリが殖^ふえたので、アロマのディフューザーで駆除^{くじょ}するのじゃ。

1666: 暖色^{だんしよく}だと、スピエホヴィッチは、シャルトルーズイエロー^お推しですね。

1667: クウは様々^{さまざま}な人に使われ、人違^{ひとちが}いで危^{あや}うい目^めにあいました。

1668: プリミティーヴォは、奇妙^{きみょう}な性質^{せいしつ}を有^{ゆう}する酵母^{こうぼ}を発見^{はっけん}しました。

1669: 奴^{やつ}なら、クエベックには堀^{ほり}がないなどと、ペラペラ^{しゃべ}喋^{しゃべ}ってますが。

1670: 亡^なき妻^{つま}を恋^こうピヤニッチに、哀愁^{あいしゅう}が漂^{ただよ}って見^みえます。

1671: 月末^{げつまつ}のゴルフなら、キャディにチュイコフも誘^{さそ}いません？

1672: ディヴィニャーノでは、先程^{さきほど}からテレビの受像^{じゅぞう}がゆがんでますね。

1673: 在学期間^{ざいがくきかん}に、朱泥急須^{しゅでいきゅうす}を近距離^{きんきより}からみたいものです。

1674: 明後日^{みょうごにち}は七月十六日^{しちがつじゅうろくにち}で、虹^{にじ}の日^ひと言^いわれています。

1675: グォーフエイさん、チェロの弦^{げん}の張^{ちようりよく}力^{ゆる}が、緩^{ゆる}んでますよ。

1676: ピエルパオロが来^くるとの予測^{よそく}が外^{はず}れ、シャペルはがっかりしました。

1677: 悪足掻^{わるあが}きしても、グェアさんに劣^{おと}る事実^{じじつ}は覆^{くつがえ}りませぬ。

1678: ラギュスのゾンビ好^ずきって、親戚^{しんせき}も御存知^{ごぞんじ}でしょうね。

1679: ピョちゃんが、濁流^{だくりゅう}を模倣^{もぎ}するバーチャルリアリティアプリを出^だしました。

1680: 僕^{ぼく}は、リヒャルデイスに唆^{そそのか}されただけの弱者^{じゃくしゃ}ですよ。

1681: ミエルンには、デュボワの肖像画^{しょうぞうが}が、今^{いま}も祀^{まつ}られています。

1682: 奇抜^{きばつ}な修行^{しゅぎょう}で衰弱^{すいじゃく}し、病^{やまい}で脚^{あし}も虚劳^{きやろう}してきました。

1683: ピッツォッケリを藐視^{びょうし}することは、直^{ただ}ちにやめましょう。

1684: 部下^{ぶか}のファーディが、ドラキュラに襲^{おそ}われたと 嘯^{うそぶ} いておる。

1685: イエンの知識^{ちしき}は素晴^{すば}らしいが、ヴシュコヴィッチ^{ほど} 程ではありません。

1686: 重^{じゅうこう} 厚^で な出来栄^{きば}えの魚^{ぎょ} 眼^{がん} レンズが、不慮^{ふりょ}の事故^{じこ}で破損^{はそん}しました。

1687: ちょいと 尋^{たず}ねますが、テヤっちゃん^{そん}ってご存^{ぞん}じですかな？

1688: 馬鈴薯^{ばれいしょ}の反^{たん} 収^{しゅう} は悪^{わる}くないと、ピムは力^{りき} 説^{せつ}しました。

1689: 花火^{はなび}も無事^{ぶじ}に揚^あがったので、そろそろ 黒^{こく} 白^{びやく} をつけましょう。

1690: ギュリュムは小豆^{あずき}を洗^{あら}い、フェリーでフェスティバル^むに向かいました。

1691: 身持ち^{みもち}が修^{おさ}まり、テョーと叫^{さけ}ぶ癖^{くせ}も 改^{あらた} めました。

1692: キューディッペーは、ファンシィな踊^{おど}りが実^{じつ}に上^{じょうず} 手^ずです。

1693: グザヴィエさん、蛍^{けいこう} 光^{とりょう} 塗^す 料^め ばかりでは、ピカピカ過^{どく} ぎて目^めに毒^{どく} ですわ。

1694: エクィテスは博^{はく} 学^{がく} そうで、実^{じつ} は即座^{そくざ}にウィキペディア^みを見てます。

1695: ヌサドゥアで買^かったシェリー^{しゅ} 酒^す が、酸^す いくなくなっていました。

1696: セーケシュフェヘールヴァールには、旅^{りょ} 愁^{しゅう} らしい侘^わ びがありますね。

1697: ピュエシュが退^{たい} 却^{きやく} し、武^ぶ 力^{りよく} のバラン^{くず} スが崩^{くず} れてますね。

1698: 率^{そつ} 直^{ちよく} に、貴女^{あなた}とフィッシャー^{なか}の仲^{はい} に、ヒビが入^{ゆうりよ} ることを憂^{ゆう} 慮^{りよ} してます。

1699: デャーナを糧^{かて} に、フィリップ^{おお}は大^{せい} なる成^{ちよう} 長^と を遂^と げます。

1700: 要^{よう} 略^{りやく} すると、不^ぶ 格^{かく} 好^{こう} でドタドタ^{ある} 歩^{あや} き怪^{むじつ} しいが、無^む 実^{じつ} ってことか。

1701: んーと、今日^{きょう} は白^{びやく} 夜^や だから、日^{にち} 没^{ぼつ} はありませんね。

1702: バミューダ^{しょう} 諸^{とう} 島^す と比^ご 較^ち して、ティコピア^よ 島^よ の住^す み心^{しん} 地^ち は良^ら さげかな？

1703: 百^{ひやく} デイナール^{げん} で厳^{げん} 罰^{ばつ} を免^{まぬ} れるなら、チャッチャ^{はら} と払^{はら} っちゃうぜ。

1704: 旦那^{だんな} がシェミャーカ^{けったく} と結^{むら} 託^{はちぶ} し、ヴォジャ^{むら} を村^{むら} 八^{はち} 分^{ぶん} にしたそうだ。

1705: レーダーに^{ぎょぐん}魚群が^{うつ}写り、ミューケイジーが^{よろこ}キャーキャー喜ぶ。

1706: ^{おそ}恐らくニューニエスの^{どりよく}努力は^{みの}実らず、^{けつれつ}決裂するだろうな。

1707: ^{かのじょ}彼女は^{さいえん}才媛だと^も持て^{はや}囃されるが、^{きょぞう}虚像である。

1708: ディーディーとヴィクトールは、^{さんじ}三時になると^{たか}高い^{こうちゃ}紅茶を^の飲む。

1709: ビュシエール＝ポワトヴィーヌなら、ガイドブックは^{ひつけい}必携だぜ。

1710: ヴォエヴォーダの^{すば}素晴らしき^{えんそう}演奏は、^{こころ}心を^{ほとけ}仏のように^{しず}静める。

1711: ベレゾフスキーは、^{ほつきがい}北寄貝と^{かんびょうまき}干瓢巻を^たバクバク食べる。

1712: ヘートヴィヒ様は^{さま}都落ちし、^{みやこお}ポンピドゥーと^す過ごすことになった。

1713: ^{おば}叔母が、^{とう}トリョフルチェヴォイ島への^{いじゅう}移住を^{きぼう}希望し、^{きやつか}却下されてた。

1714: ゾロリは、^{ねむ}眠いが^{ちょうり}チャプチェを^{おく}調理し、^{おく}パーハムに^{おく}送った。

1715: ^{たんざく}短冊に、^ほエトゥープの^かバッグが^{かざ}欲しいと書いて^{かざ}飾った。

1716: ^{しょはん}初版の^う売り上げは^あ芳^{かんば}しかったが、^{ぜつばん}絶版になりぬか^{よろこ}喜びだ。

1717: あのと^{げんみょうごしゅこう}き、^{にゅうしゅ}玄妙五種香を^{そこ}入手し^く損ねたことを、悔いている。

1718: ^{けいじ}掲示によると、^{あす}チューベローズが^{とど}明日へりで^{とど}届くようだ。

1719: ^かデァーと^{ごえ}掛け^{はっ}声を^{ゆうべん}発し、^のヴィジャヤは^の雄弁に^のビジョンを^の述べる。

1720: ^{おご}トリュフォが^{おご}奢った^{きぼう}ホタテカルパッチョは、^{あた}ヘディに^{あた}希望を^{あた}与えた。

1721: ^{あまがつぱ}ゼクシィによると、^{あまがつぱ}雨合羽で^{あまがつぱ}デートするのが^{あまがつぱ}ナウいそうじゃ。

1722: ^{ふさい}ヒップホップ^{かか}パーティーで^{ゆる}負債を^{ゆる}抱えたが、^{ゆる}緩やかに^ふファンが^ふ増えている。

1723: ^{きやくせん}ヴェルホヴィーネツィの^{ざしょう}客船が^{ざんがい}座礁し、^{ふりゅう}まだ残骸が^{ふりゅう}浮流してる。

1724: ^{なよろし}ギェンツェンへの^{なよろし}メッセージが、^{わつさむちょう}名寄市や^{とど}和寒町から^{とど}届いた。

1725: ^{わたし}私は、^{ほそみ}細身の^{おど}シェザナと^{おど}ペアになって、^{おど}パヴァーヌを^{おど}踊る。

1726: ゼウスの^{かせつ}仮説を^{けんしょう}検証^{びょうにんがい}するため、^む病人^{以外}はヴヴェイに向かう。

1727: キャバイエ^{くん}君^{ひそ}、砒素^{もうどく}は猛毒^{ぜったい}だから、絶対^ふに触れちゃダメだぞ。

1728: ヴィジャヌエバは、^{こわくてき}蠱惑^{ことば}的な言葉^{まど}で惑わすから、^あ会^きうなら気をつけなよ。

1729: ひょっとしてギディーニは、^{におうだ}仁王^だ立ちと^{くべつ}ジョジョ^だ立ちを区別^{くべつ}できないのか？

1730: ^{いちじる}著^{せいちょう}しい成^と長^{よりよく}を遂げたティナは、余力^{たびだ}がありヨーロッパへ旅^{たびだ}立つ。

1731: ギョキツアの優れた^{すぐ}洞^{どう}察^{さつ}力^{りよく}は、^{きよげんへき}虚言癖^{うそ}の嘘^{みぬ}でも見抜けるそうだ。

1732: ^{すいがい}水害^{まも}から守^{つつみ}るための堤^{しやい}に、^{しめ}パパラッチ^{しめ}が謝意^{しめ}を示す。

1733: ^{ぐんそう}軍曹^{きず}は傷^ぬを縫^{いな}うや否^{ひりゅう}や、「ぬん」と飛龍^{きば}の牙^なを投げつけたのじゃ。

1734: ^{ごぼどう}御母堂^{かたわ}の傍^たらに立^{りょうしゅ}つのは、領主^{りょうしゅ}のドラピエールだろう。

1735: ^{にきび}面皰^{しんぱい}が心配^{ひふ}なクズネツォワは、皮膚科^{よやく}を予約^{よやく}した。

1736: ツォーが演説^{えんぜつ}で、「チャ」を「テャ」と発音^{はつおん}したことで、疑惑^{ぎわく}は拭^{しよくふつ}払^{しよくふつ}された。

1737: ^{しゅん}旬^{しゅんぎく}のエシャロットや春菊^{ぐざい}が具材^{えいようまんてん}の、栄養満点^{なべ}の鍋^{なべ}だ。

1738: ペヴェナージさん、^{ざきょう}座興^すだとしても、それはやり過ぎ^すだぜ。

1739: おお、^{みなも}水面^{やど}に宿^{つきかけ}す月影^{すいぼくが}の水墨画^{みごと}を、^{えが}フェリーニョ^{えが}は見事^{えが}に描^{えが}くね。

1740: ^{こうえつしや}校閲者^{じゅうえん}は十^{よぞら}円^みでよくやってくれたよと、^{ほほえ}夜空^{ほほえ}を見て微笑^{ほほえ}んだ。

1741: ^{りょうりにん}ヨルダンの料理人^{てんかぶつ}ヨシュアは、あらゆる添加物^{つか}を使^{しゅぎ}わぬ主義^{しゅぎ}だ。

1742: ^{ぶべつてき}ピアチェンツァ^{ひぼう}は、侮蔑^{きぜん}的な誹謗^{へんぼう}には毅然^{へんぼう}と返報^{へんぼう}する。

1743: ^{あだ}ゲオルグ^うの仇^{あね}を討^{とう}つため、姉^よをギュウエルジン島^よへ呼^よぶ。

1744: 「グォ」を^{ふく}含む^{せつぞくし}接続詞^{にほんご}は、日本語^{そんざい}には存在^{そんざい}しない。

1745: ^み三つ^{どもえ}巴^{せい}をビェリーイエフが制^{りゅうけつ}したが、ポタポタ^{りゅうけつ}流血^{りゅうけつ}してたな。

1746: ^{わんりよく}ギリエルモ^{まか}は、腕力^{まか}に任^こせてボロボロのボート^こを漕^こぐ。

1747: ペルセウス殿が日射病^{どの につしゃびょう}なので、喉^{のど}を湿^{しめ}す水^{みず}が欲しいのじゃ。

1748: 風^{かぜ}が弱^{よわ}まったので、ユーフェはパイプ^とを取り外^{はず}した。

1749: 涼^{すず}しい場所^{ばしょ}を求め、エステーヴは占冠^{しもかつぶ}へ旅立^{たびだ}った。

1750: 胸部^{きょうぶ}圧迫^{あつぱく}骨折^{こつせつ}で、グアという呻^{うめ}き声^{こえ}すら出^でてこぬ。

1751: アクウシラオスは純情^{じゅんじょう}だから、プレゼントに花束^{はなたば}を贈^{おく}ろう。

1752: ポレヴォイは、ジェナッツァーノに数多^{あまた}の益虫^{えきちゅう}が棲^すむことを発^{はつ}表^{びょう}した。

1753: 御膝下^{おひざもと}でヒョヒョヒョと笑^{わら}い、齷齪^{あくせく}働^{はたら}く人^{ひと}を小馬鹿^{こばか}にしてるな。

1754: フィレスターキに生醤油^{きじょうゆ}を垂^たらすと、至福^{しふく}の味^{あじ}だぜ。

1755: ベビーピンクで余所^{よそ}行^ゆきの服^{ふく}を、白檀^{びやくだん}と共^{とも}にエマへ委^{ゆだ}ねる。

1756: ジェノヴァには、親^{おや}の仇^{かたき}がいとギュヴェンは言^いい、自嘲^{じちょう}気味^{ぎみ}に笑^{わら}った。

1757: ギュファンをコチョコチョコ^{くすぐ}擦^{べつ}ったが、別^{ほこ}に誇^こることじゃないよ。

1758: ピューラーの老舗^{しにせ}で、俗^{ぞく}な一^{いっ}品^{びん}が続^{ぞくぞく}々と入荷^{にゅうか}してきた。

1759: テュスフィヨールを駆^かけ抜^ぬけたけど、目的^{もくてき}地^ちはどこだ。

1760: 手^て抜^ぬきを改^{あらた}め、キュキュっとなるまで食器^{しょつき}を磨^{みが}くように。

1761: 自^{みずか}らの可能性^{かのうせい}を狭^{せば}めるジョプリンを、ピロヴァノが励^{はげ}ます。

1762: シュヴェーズィヒの秘書^{ひしょ}なら、問屋^{とんや}の窓^{まど}口^{ぐち}を知^しってるはずだよ。

1763: ジェラートのブーム^{つづ}を続^{つづ}けるため、タルトゥフォも発^{はつ}売^{ばい}しよう。

1764: 儂^{わし}は世俗^{せぞく}には疎^{うと}く、ヒュヴァリネンなどは知^しらぬよ。

1765: 不調^{ふちょう}時には、雑炊^{ぞうすい}と湯たんぽ^ゆで体^{からだ}を温^{あた}めて寝^ねよう。

1766: ポリエステルとシルクが混^まざり、エデュークには区^く別^{べつ}できない。

1767: ピニャータを製^{せい}作^{さく}し衰^{すい}弱^{じゃく}したが、粥^{かゆ}とパイナップル^{かいふく}で回^{かい}復^{ふく}した。

1768: 小児科から、ビエーンやピエーンに加^{くわ}え、テョーンと変^{へん}な泣^なき声^{こえ}がするな。

1769: 偏屈^{へんくつ}なウィッチは、井然^{せいぜん}としていないものを、躊躇^{ちゅうちょ}せず攻^{こう}撃^{げき}する。

1770: 鉄砲^{てっぽう}の弾^{たま}がデイズに当^あたり、ボシャルは激怒^{げきど}した。

1771: チャパクァで、博打^{ばくち}に負^まけた不足^{ふそく}を、曲^{きょく}芸^{げい}で賄^{まかな}った。

1772: ナウなヤングにバカウケという風潮^{ふうちょうづく}作りは、ビョルヴィカの戦術^{せんじゅつ}なの。

1773: ヒェルトウルは、ホンジュラスへの留^{りゅう}学^{がく}を強^{つよ}く志望^{しぼう}している。

1774: 逆風^{ぎゃくふう}に負^まけず勝^かち取^とった宝^{たから}箱^{ばこ}が、空^{から}っぽで憮然^{ぶぜん}とした。

1775: あー、ペルフェッチに督^{とく}促^{そく}のニュアンスは、伝^{つた}わって無^ないね。

1776: 現金^{げんきん}四^{よん}百^{ひゃく}四^{よん}十^{じゅう}四^{よん}円^{えん}で、ウォッカを選^{えら}んだ。

1777: 顔^{かお}の産毛^{うぶげ}を気^きにするピヤタコフは、脱^{だつ}毛^{もう}しようか迷^{まよ}う。

1778: 秩序^{ちつじょ}を唾棄^{だき}すれば無秩序^{むちつじょ}に潰^{つぶ}されると、トゥファに教^{おそ}わったよね？

1779: ありゃりゃ、キュヴェは少^{すこ}しだけ温^{あた}めて飲^のむのが、醍醐^{だいご}味^みだぞ。

1780: プールの後^{あと}は、茶室^{ちゃしつ}で煎茶^{せんちゃ}でも飲^のんで休^{やす}み給^{たま}え。

1781: プツォンツイの旅^{たび}には行^いったけど、外側^{そとがわ}から眺^{なが}めただけだよ。

1782: グイーディは運^{うん}輸^ゆ局^{きょく}に勤^{つと}めてから、リャプノフと知^しり合^あった。

1783: 緑青^{ろくしょう}を、錆^{さび}だと知^しらぬシェンキエヴィチが、何気^{なにげ}なく舐^なめたって？

1784: 一^{いっ}票^{びょう}は一^{いっ}票^{びょう}の規^き則^{そく}だから、三^{さん}票^{びょう}にやできないうて。

1785: チェザレにとって、服^{ふく}飾^{しよく}雜^ざ貨^かのショッピングは、趣^{しゆみ}味^みなんだろう？

1786: 緩^{ゆる}いテンポのポップミュージックを聴^ききながら、グゥを拝^{おが}む。

1787: 必修^{ひっしゅう}のレポ^{レポ}ートは、デョレトバグをターゲッ^{ターゲット}にしてみるよ。

1788: 穩便^{おんびん}に済^すませるつもりだったが、ドゥムバーゼは不^ふ服^{ふく}であるようだ。

1789: スイトジェフティは、ボロボロの生活に苦しめられている。

1790: グェルフィは、路上でペンネパスタの屋台を、悠々と引く。

1791: 伯父がウェロニカにへしこを食わせ、これが抜群に旨かったらしい。

1792: 窓ガラスにぶよぶよとした、得体のしれない物体が張り付いた。

1793: クインマンサを撃墜できるのであれば、子供か否かは問わぬ。

1794: おっと、ブルゴーニュワインに添えるチーズが、焦げてしまった。

1795: クェイクの一人称が朕だなんて、明らかに変だろ。

1796: 外科のヴァシャゼは、密かにゼフュロスを吹き、憂さ晴らしする。

1797: ノーショーピングで、樹木が茂るゾーンに風情を感じる。

1798: パサマクォディ部族に手紙を書いたら、アルファベット文字で平気だよ。

1799: ツェロフハドは、溶けたピーチアイスを床に落としてしまった。

1800: ミェチスワフは鉛筆集めが好きとの俗説は、後に覆る。